

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.31 2019年 夏号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い③⑩昆虫と猛禽類  
突撃!鳥海イヌワシみらい館⑬ アマゾン先生 山口吉彦氏  
蜂蜜の森から⑩「人を襲うハチはたった3種類」

「アオバスク」酒田市にて撮影：長船裕紀



チョウゲンボウとケラ

# Bird-watching

バードウォッチングへの誘い 30



ノスリ

## 昆虫と猛禽類

昆虫は世界では約100万種類の昆虫が知られていて、全生物種の半数以上をも占めており、地球はまさに昆虫の星ともいえるほどの多様性を誇っています。一方で全生物の頂点となる猛禽類は世界でも約550種ほどで、昆虫とは食べる食べられるの関係です。

昆虫と猛禽類の関係から環境を見つめてみてはいかがでしょうか。

参考：樋口広芳 著『日本のタカ学』、鳥海イヌワシみらい館通信 Vol.10

### チゴハヤブサと昆虫

ハヤブサの狩りの特徴は空中ハンティング。チゴハヤブサも空中で飛んでいるトンボなどを捕まえては飛行しながら食べるという荒業を行っています。



チゴハヤブサと双翅目

### ハチクマとハチ

ハチを食べるから名付けられた和名ハチクマ。繁殖期のエサの約60%がハチの子であり、巣盤ごと根こそぎとっていきます。私たちが知らないところでハチとハチクマの攻防戦が繰り広げられているのです。



ハチの巣箱の前でこぼれたハチの子を食べるハチクマ

### サシバと昆虫

里山で暮らすサシバは、多くの動物たちをエサ資源にしており、カエルなどの両生類を中心に昆虫類もよくとらえているようです。2002年に行われた栃木県のサシバ繁殖地での調査では、雛3羽に対して給餌された餌の数の実に25%は昆虫類であるとの報告があります。



虫はムシでもマムシをつかまえたサシバ

### 猛禽類とアカマダラハナムグリ

鳥類と共生する、アカマダラハナムグリという体長2cm程度の小さな甲虫がいます。以前は、たい肥や茅葺屋根でも繁殖していたようですが、近年ではそういった環境の減少から、猛禽類などの巣に依存している割合が高くなっているようです。しかし、猛禽類も絶滅危惧種になるなど環境の悪化から減少傾向にあり、アカマダラハナムグリも運命共同体の関係にあると考えられます。



アカマダラハナムグリ

## 生物濃縮

レイチェル・カーソン『沈黙の春』では、1960年台までアメリカで殺虫剤として使用されたDDTにより、農業害虫が大量に駆除されました。昆虫類が減少したことで餌が減少し、生態系ピラミッドのバランスが崩れてしまったこと、また農薬によって汚染された昆虫を食べた鳥類たちの体内に蓄積された農薬の濃度が問題

となりました。猛禽類を守るためには、昆虫類を含む下層生物・環境をも理解し、保全することが重要です。



農薬散布

# 庄内の動物情報コーナー

鳥海高原は5月6月と例年より寒い日が続きました。平野部ではトラフズクの子の繁殖が失敗してしまう例が数件、報告されました。新潟庄内沖の地震では、大きい揺れがありました。地滑りなど地震による自然への影響は比較的小さかったのかなと思います。何か見つけたものがありましたら、moukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2019/5/12「ノドグロツグミ」酒田市  
ムクドリかな？なんて思っちゃいそうなカラーリングですが迷鳥です。さらにのどが赤い個体が多いようですが、こちらはしっかりとしたノドグロ。  
撮影：石澤様



2019/6/12「キジ」酒田市  
みあってみあって～はっけよい！キジの同士によるプライドのぶつかり合い。軍配はどちらのみに！？  
撮影：佐藤忠昭様



2019/6/18「サンバ」酒田市  
毎年必ずやってくる場所で、今年も観察できたようです。ということはその環境は今でも健全に保たれているということ。毎年継続して観察したいですね。  
撮影：秋葉礼渚様



2019/6/26「ハッチョウトンボ」酒田市  
日本で最小のトンボ。一円玉と同大なので、トンボとは思えないほど！限られた場所でのしか発生出来ません。環境の多様性も重要ということです。撮影：たっちゃん様



2019/7/11「ウラギンヒョウモン」酒田市  
表面はレオパード柄ですが、裏面が様々な差異があり、それによって種名が変わってきます。  
撮影：長船裕紀



2019/7/15「ヤマセミ」山形県最上地方  
白黒模様が絶妙なバランスで人気のあるヤマセミ。溪流の魚に向かってダイブ！  
撮影：渡会様

# 全国の動物情報コーナー



2019/6月「アカショウビン」新潟県  
自宅にて撮影したそうです。声はすれども姿は見えなかったそうですが、出てきた一瞬を間近でとらえることができたとのことでした。  
撮影：波多様



2019/7月「チゴハヤブサ」秋田県大館市  
赤い脛と黒いハヤブサひげが特徴。これから繁殖して、お盆ごろにヒナたちが巣立ちを迎えるのでしょうね。撮影：山島様



2019/7/6「ハチクマ」秋田県にかほ市  
イヌワシとよく間違えられる代表のハチクマ。飛行形がよく似ていますが、翼開長に比べて尾羽と頭部が長いことで判別できます。  
撮影：土田様

# Interview

突撃! 鳥海イヌワシみらい館 13



世界最大の密林アマゾン

## アマゾン先生～ 山口吉彦氏に聞く



アマゾンの生態系の頂点、オウギワシの羽根で作った羽飾りを手に取材に応じてくださったチャーミングな山口氏。



山口吉彦 ● やまぐち よしひこ

1942年鶴岡市出身。文化人類学者。アマゾン研究所所長。山形新聞3P賞(平和賞)、サントリー地域文化賞、大同生命国際文化基金地域研究特別賞、NHK東北ふるさと賞を受賞、鶴岡市制功労表彰受賞。著書に『共生の大地』、『アマゾンに学ぶ「我ら地球家族」』。

— どのような子ども時代を過ごされましたか？

戦後、父がシベリアに抑留されていたこともあって、母や祖母とともに生活のため山菜などを採取していました。その際に出会った昆虫たちを採集したりして遊んでいました。

— アマゾンを意識したのはいつ頃ですか？

小学生の時にヘンリー・ウォルター・ベイツやウォレスなど生物学者たちの冒険を読み、いつかアマゾンに行き熱帯の美しいチョウや昆虫を採集したいと思うようになりました。

— 影響を受けた人はいますか？

フランス人で文化人類学者のク

ロード・レヴィ=ストロース(1908-2009)です。熱帯農業を大学で専攻していたのですが、卒業後にフランスのボルドー大学に留学しました。在学中に、レヴィ=ストロースのお弟子さんがリヨン大学で文化人類学を教えていると知り、リヨン大学に転学しました。

— ジングルを冒険して危険だったことはありますか。

アマゾンの探検中、3mにも及ぶ大型の毒蛇「ブッシュマスター」に足をかまれましたが、頑丈な探検靴を履いていたため難を逃れました。ジャガーが生息する密林で野営して眠れない夜を過ごしたこともありますし、川で船



矢羽として使われる猛禽類の羽根



弓を向けるインディオの子ども



インディオの子どもたちと



アマゾンでの植林活動



ベニヘラサギのクチバシや羽根で作った首飾り



アカハナグマ



インディオの酋長と

## 異なる文化を認めあえる、グローバルな視点を持つべきです。

が転覆しそうになったりするなど、何度も命の危険に遭遇しました。それでも何度もアマゾンに訪れたのは調査研究のためもありますが、子どもの頃夢に見たものを現実に目の当たりにできるパラダイスだったからです。

—— 環境が変わってきていると感じることはありますか？

北極圏では以前まで海上の氷に穴をあけて、その穴から魚を捕る漁をしていました。現在では氷が薄くなり、そうした漁ができなくなっています。また南太平洋の島国「ツバル」では海面上昇によって国土面積が減少し、国家を移転しなければならないような状況に陥っています。南太平洋の国の人々は化石燃料を多く使うような生活はしていませんが、先進国から出される温室効果ガスによる影響で生活が脅かされています。アマゾンではファーストフードなどで使用される安価な肉を生産するために、密林が切り開かれています。食生活を見直すこと

も環境保全につながるのです。

—— インディオからどのように自然と「共生」するかを学ぶべきですか？

インディオは今生きている自分たちだけ良ければ良いという考えで生きてはいません。先祖から引き継いだ環境や資源を守り、これから生まれてくる未来の子孫たちを考えて生活を営んでいます。

—— 県内、海外の青少年の橋渡しをするなど国際交流にも尽力されていますが、どのような思いで活動していますか？

アラスカの先住民「エスキモー」は植物の少ない極寒の地で生き抜くために、生肉を食べることでビタミンを摂取してきました。しかし「エスキモー＝生の肉を食べる人」という意味から、野蛮な人種を連想するとされ一時「イヌイット」と呼んでいました。現在はまた「エスキモー」と呼ぶようになったのですが、これは何より当の民族たちが、北極圏で生き抜くための

知恵・習慣に誇りを感じているからです。日本でも黒船が来た際、生で魚を食べる野蛮な国民であるとされました。お寿司や刺身はワサビやショウガ、大葉で抗菌するという知恵が凝縮された、世界に誇る和食の代表です。よく理解しないで他国の文化や習慣を蔑視するのは良くありません。そうした各国の異なる文化を認めることができるグローバルな視点を持つ人になってほしいと思います。

—— これから冒険に出る子どもたちとその保護者に一言お願いします。

「わんぱく」に育ててほしいです。現代の子どもたちは過保護に育てられて、土がつけばすぐに「洗いなさい!」、外は危険だから家の中でテレビゲームをしていたほうが安心だと考える保護者もいます。外で泥んこになって抵抗力をつけるべきですし、バーチャルの世界ではなくリアルな世界にもっと触れるべきです。

# イベント開催報告

## ○「やまがた森の感謝祭2019」

毎年6月の第一土曜日は「やまがた森の日」ということで、6月1日(土)に開催されたやまがた森の感謝祭に出展させていただきました。この森の感謝祭は山形県の4つのエリアで持ち回りで開催される催しで、今年は酒田市の眺海の森を会場に開催されました。会場では松山藩荻野流砲術伝承保存会による古式銃演武や、山形県知事をはじめ各市町村の首長が参会し、記念植樹なども行われました。

みらい館のブースではイヌワシの視力体験や、はてなボックスなど楽しいアトラクションで大勢の子供たちが遊んで行ってくれました。鳥海イヌワシみらい館のマスコットキャラクター、ワッシーくんも応援に駆け付け、会場を盛り上げました。来場してくれた皆さんありがとうございました。



## ○「今日はZOOっと猛禽類！わくわく体験ツアー♪」

6月29日(土)に秋田市大森山動物園と鳥海イヌワシみらい館の共催で「今日はZOOっと猛禽類！わくわく体験ツアー♪」を開催しました。普段は見られない動物園の裏側を見て、大森山動物園の名物猛禽類の腕のせ展示を見ながらお鷹ぼっぼの絵付けに挑戦しようというイベントです。

動物病院では三浦獣医師による動物病院のお仕事の話なども聞くことができました。長船専門員は山形県でのイヌワシ保護の経緯を紹介しました。

後半は猛禽類の担当飼育員の皆さんでイヌワシ、フクロウ、ニシアメリカオオコノハズク、ワシミズクの腕のせ展示を間近に見ながら、山形県の伝統工芸品お鷹ぼっぼに絵付けをしてもらいました。参加者、猛禽類たちの特徴をよくとらえた作品ができていたと思います。参加してくれた皆さん、大森山動物園の皆さんありがとうございました。



## ○「鳥海山昆虫ラボ！」

7月20日(土)鳥海山昆虫ラボ！開催しました。午前中の外での活動ではチョウやバッタ、甲虫、トンボなど様々な昆虫たちを採集できました。午後からは標本づくり講座を開催し、とても素晴らしい昆虫標本ができたと思います。科学の入り口として良い体験になったのではないのでしょうか。

猛禽類保護センターなのに昆虫？と思う方もいるかもしれませんが、昆虫を含めた下層生物・生産者を理解せずに、保護を訴えることはまさに「木を見て森を見ず」ではないかと思います。広い視点で環境を理解することが重要です。

これから始まる夏休み、昆虫採集をして身近な環境を肌で体感していただきたいと思います。

参加してくれた皆さん、庄内昆虫同好会の皆さんありがとうございました！



# イベント情報コーナー

## 「夏休み体験プログラム」

期 日 令和元年7月22日（月）～8月18日（日）  
 時 間 AM9：30～11：30 PM1：30～3：30  
 場 所 鳥海イヌワシみらい館 特設会場  
 内 容 1週目「アントラースプーン・フォーク作り」  
 2週目「エコバッグ作り」  
 3週目「ドリームキャッチャー作り」  
 4週目「蜜ろうそく作り」  
 期間中毎日「お鷹ぼっぽキーホルダー絵付け」  
 「木のうちわに絵付け」  
 材 料 費 アントラースプーン・フォーク・・・1本400円  
 エコバッグ作り・・・200円  
 ドリームキャッチャー・・・大小ともに300円  
 蜜ろうそく・・・400円  
 お鷹ぼっぽキーホルダー・・・300円  
 木のうちわ・・・300円

鳥海イヌワシみらい館  
 (猛禽類保護センター)

子供たちに人気のクワガタムシやカブトムシをはじめとした山形県内の1000種以上の昆虫標本を展示しているよ！

## 夏休み体験プログラム

令和元年7月22日（月）～8月18日（日）  
 午前9：30～11：30 午後1：30～3：30  
 お問い合わせ TEL0234-64-4681「鳥海イヌワシみらい館」まで



開催期間	プログラム内容	
1週目 7月22日（月） ～28日（日）	<b>アントラースプーン・フォーク作り</b> シカ角を軸に利用することで、 教室について考えたながら 創意を有効活用します。 参加費：400円	毎日開催 <b>お鷹ぼっぽ キーホルダー (フクロウ)の 絵付け</b> 不器用の口を合わせから、 縁起物とされてきたかわ いらしいフクロウのキー ホルダーに絵付けします。 参加費：300円
2週目 7月29日（月） ～8月4日（日）	<b>エコバッグ作り</b> 葉っぱの模様を転写して オリジナルのバッグを作 りましょう。 参加費：200円	<b>木のうちわに絵付け</b> 今話題の「個性 紙」で作ったう ちわに絵付けし ます。 参加費：300円
3週目 8月5日（月） ～11日（日）	<b>ドリームキャッチャー作り</b> 鳥の羽を使ったインディアン のお守りです。ヒューズやひし のデザインを変えて、壁掛け やネックレスを作ろう！ 参加費：300円	<b>蜜ろうそく作り</b> 貴重なミツロウを使って、 わんたのようにろうそく を作ります。虫歯予防 効果も体感します。 参加費：400円
4週目 8月12日（月） ～18日（日）		※材料がなくなり次第終了となります。

おり紙・ぬり絵コーナーもありますので、小さいお子様も一緒にお越しください。

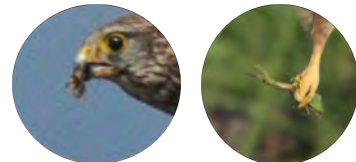
※ぬりえ・折り紙コーナーもありますので小さいお子様も一緒にご来場ください。

お申込み 不要(当日会場へ直接お越しください。)

## やまがた昆虫ラボ展示会「こんな虫見たことある!？」

庄内昆虫同好会による昆虫標本の展示会です。山形県内で採集された1000種にも及ぶ昆虫標本を展示しているほか、実体顕微鏡のコーナーではミクロの世界をのぞいてみましょう

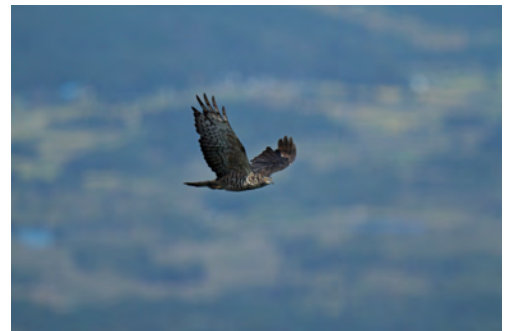
期 日 令和元年7月20日（土）～8月18日（日）  
 時 間 9：00～16：30  
 会 場 鳥海イヌワシみらい館展示室  
 入 場 無料  
 主 催 猛禽類保護センター活用協議会  
 協 力 庄内昆虫同好会、高嶋清明



昆虫を利用する猛禽類たち

## 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会共催観察会「イヌワシと猛禽類の秋の渡りを見よう！」

期 日 令和元年9月7日（土）  
 時 間 9：00～14：00  
 会 場 鳥海山鉾立登山口  
 参 加 費 一人300円（保険・資料代）  
 募集定員 先着20名  
 持 ち 物 双眼鏡（貸出可）、昼食、飲み物  
 募集期間 8月1日（木）～9月5日（木）  
 共 催 猛禽類保護センター活用協議会  
 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会



当日みられると予想されるハチクマ  
 ハチクマやノスリなど、秋に南下する猛禽類を中心に標高1000mの眺望から観察します。

上記イベントに関するお申込み・お問合せ  
 鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）  
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
 E-mail:moukin@raptor-c.com



# 蜂蜜の森から

第10回「人を襲うハチはたった3種類」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第10回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



刺さないオオハキリバチ



私が刺されためったに刺さないジガバチ

人を襲うハチはたった3種類しかいないことをご存知ですか？スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチだけです。

この3種類は、巣に近づく悪者が来た時に、家族を守るために先制攻撃をするのです。とはいえ、アシナガバチは1~2mまで近づいてもめったに襲ってきません。怖いのはスズメバチで、家族が増えると10m離れていても襲ってくる場合があります。

しかし、この3種類といえども巣以外の場所で人を襲うことはありません。お花畑で蜜を集めるミツバチも、畑でイモムシをつかまえるアシナガバチも刺しません。養蜂では、巣箱にミツバチを狩りに来るキイロスズメバチを捕虫網でつかまえる仕事があります。その時に養蜂家を刺すのはミツバチです(笑)。

ではなぜ他のハチは人を襲わないかという、家族を持っていないからです。守るべき子供は自分のお腹にある卵なので戦わずに逃げます。安全な産卵場所にエサを運び、卵を産み、巣にフタをすればサヨナラをする習性なのです。

さて、私の工房ではジガバチが仕事場にたびたび入ってきて、ガラス窓から出られなくなることがあります。私はその度に手で覆うように軽くつかんで外に逃がしてあげます。ある時、もしかしてこのハチは攻撃のために針を使わないのではないかと思い、少し強めににぎってみました。やはり刺しませんでした。納得して放そうとしましたが、その寸前にさらに強めににぎってみました(笑)。

やはり、どんなハチも触らない方がいいようです。



安藤竜二 (あんど う りゅうじ)  
1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソク製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

## 普及啓発担当

震度6弱の地震は初めての経験でした。どこにいても安全ではないことを改めて思い知らされました。(本)

## 希少種保護増殖等専門員

酒田市はケヤキのまち。暑い夏だからこそ涼を求めて市内の保存樹(酒田市制度)巡りをしようと思います。(長)

## 事務局

暑中お見舞い申し上げます。夏休み皆様のお越しをお待ちしております。(村)

## 鳥海南麓自然保護官

夏休みは体験プログラムを実施しています。家族で遊びに来てください。(澤)

## 編集後記&施設情報

### 鳥海イヌワシみらい館 7月~9月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・無し

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

[f https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor](https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor)

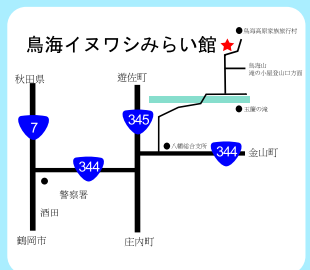
## 猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: [moukin@raptor-c.com](mailto:moukin@raptor-c.com)



鳥海イヌワシみらい館通信  
Vol.31 夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会  
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)